

夜間に浮かび上がる光景
その光景を太陽は知らない

光

*My Garden Story
Part.4*

太陽の光の指す昼とは異なり、夜の闇は日中の光景を何もなかったかのように包み込む。ライティングによって映し出される光景とその魅力。

撮影◎漆戸 美保 写真提供◎ Heaven's Garden

その光が映し出す光景

一日の半分は夜である。太陽の無い闇の世界に光が灯る。そこに映し出される光景を見てそこに人は何を感じるのだろうか。ライトの光は日中の太陽光とは異なり、闇の中で映したいものだけを映す。そしてそこに新たな影を作り出す。昼には見ることの出来なかったその影は単に暗いのではなく、影の持つ深みのある魅力を浮かび上がらせる。

またその光と影の演出により素材の持つ

魅力は昼間に見たものとは違う強い存在感を放ち始める。ゴツゴツとした岩のテクスチャー、柔らかく揺れる木々の枝葉やしなやかな幹。それらは昼の世界でも見えていたのだが、夜は更に強調される。太陽光ではない光を得た素材は新たな影を得て、その影は別の物に投影されることで更に素材の存在感を増していく。

太陽の光に映し出される光景、それはある一つの側面から見た光景である。そして闇の中に浮かびあがる光景は、その空間の持つ新たな顔を引き出してくれる。

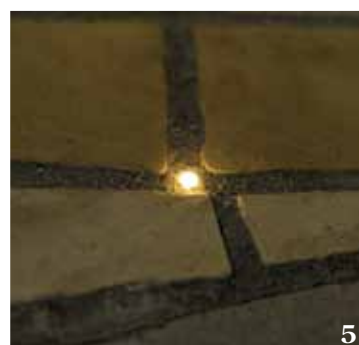
デザインに合わせた
様々なライティング

一口にライティングといっても種類、方法などは様々である。映し出したい場所用途、器具の選定など色々な角度から考えることができる。

下の写真における6は門柱そのものがライトになっている。エントランスのスペースがあまり広く取れない中で何か象徴的なものを作りたいかった。通常は門柱にライトがついているという考え方をするのだがこれは逆で、ライトに門柱の機能が備わっている。表札、インターホン、ポストをライトの中央に設置し、ライトを上下に設置した。インテリアにおける個性的なスタンドライトの在り方に近い考え方で、これだけでエントランスは非常に個性豊かなものとなる。7は植栽灯でスポットライトによるシャドーライティングである。窓ひとつ無い大きな壁面だからこそ、大きな樹影を映し出すことができる。8は埋め込み「凹」ライトである。白いタイルとサンゴ石のコントラストが門周りを象徴的に映し出している。9は植栽灯を壁の後ろに配したものの。ガラスブロックが埋め込まれているのでガラスブロックがライトのような役目を果たしている。10はボールの高い位置にライトを設置した例。シェードが光の幕となり反射し庭全体を照らしている。ライティングはそこにある様々なものの新たな魅力を引き出してくれる。



6. 光がアプローチの石を艶のあるものにする
7. 樹影が白い壁に枝葉をも映し出している
8. 埋込ライトは日中、見えないのが面白い
9. ガラスブロックがライトの様な効果を出す
10. シェードの反射光がライトの効果を増す



1. 美しい円形が浮かび上がるエントランス
2. サンゴ石の素材感が更に強調されている
3. 強力な LED ライト。角度調整が可能
4. 小さな LED ライトは等間隔で埋め込まれている
5. 普段は透明なのでどこにライトがあるか分からない

そこに浮かび上がる姿
夜が待ち遠しくなる

ライティングによって
その空間を切り出す

ライトの光の無い夜、それは全てを闇で覆う漆黒の世界である。そして闇の中だから昼とは異なる演出ができる。

藤沢にあるS様邸はそんなライティングの演出への強い思い入れが形になったものだ。昼間はサンゴ石の門柱が中央に立ち、外周に緑の芝生が植え込まれており、爽やかなリゾート感のある仕上がりになっている。しかしこの素材達が本来持っているものはライティングによって更に引き出される。サークル状に囲まれた1cmにも満たないLEDライトにより、外周部のピンコロ石が光の環に浮かび上がる。また中央のサンゴ石の門柱は強力なLEDライトによってその石肌の荒々しさを惜しげもなく披露し、昼の太陽の下では見えなかった表情が見えてくる。

夜と昼との演出の最大の違い。それはライトの光の当たるところしか映し出されないことにある。通常、日中は視界に入る全てのものを映し出す。それは余り見たいもの、そうでないものの優先順位をつけることなく平等に見えてしまう。しかし夜闇の世界では映し出したいものだけをはっきりと映し出してくれる。

ライティングは暗闇というステージに一筋の光を落とし空間を切り出していく。その空間を違った角度から見ると別の魅力が見えてくる。

光、家、暖かさ
 その中で暮らしたい

エントランスと家の全景。
 光と光が繋がり一つの家の
 ライティングができる



帰りたくなる家
 そこにある光の温もり

光。そこに光があるだけで思わず顔が綻んでしまう。光とは人が暮らしていく中で非常に重要であり、ある種、人間らしい暮らしの象徴なのかもしれない。

鎌倉にあるU様邸のエントランスはそこに立つ人の気持ちそのものまで変えてしまふ。

エントランスの両端に設置されたバリ製のバラストーンという砂岩のシェードのライトはその隙間からこぼれる優しい光を放ち、それは柔らかなシルクのようにエントランス全体を包み込む。アプローチに敷かれた石板の表情が一つ一つ違うこと、生垣の葉の生命の持つしなやかさや板の力強さ、全てを包みこんでくれる。

門柱に配されたブラケットライトにはブルメリアの図柄が掘り込まれており、そこから漏れる光は、白い門柱を照らしながら反射している。またこのライトがあることにより重厚感を増し、エントランス全体を更にシンボリックなものにしている。3つの光はそれぞれに強い個性を持ちながらも交わってその空間を演出している。

家の窓から漏れる光と一体となるエントランスのライティング。エクステリア、ガーデンのライティングその家の一部であり、それは家そのものをも優しく包んでいる。ここに立つと優しい気持ちになれる。そんな家は素敵だ。



1. 優しい光に包まれるエントランス
2. 自然石の温もりが光から伝わってくる
3. ブルメリアの模様が掘り込まれたライト



光
My Garden Story Part.4

ライティングによる光と影
 そして闇という美しきもの

光の演出。それがライティングである。

ライティングは光を投影し影を作り出すものである。その中で重要なのは闇の部分、光の当たらない部分でもある。全てに光を当てれば良いという事でもなく、光量のバランスを保つことより光を楽しむことが出来る。そして闇の美しさも感じられる。夜は暗いものだからこそ光は暖かい。

ライトの光はその家の灯りであり、ある種の安堵感を感じられるものだ。夜、家に着いたとき、そこに光を感じたときにその安堵感が生まれるのではないだろうか。

色々な方法、器具もあり演出方法もある。ライティングはどう見えるかだけでなく、心にもその光を灯してくれるのかもしない。

エクステリアを光が演出する。

本物を大切にする
 エクステリア・
 ガーデニングの専門店です。



ヘブンスガーデン代表
 柿崎 浩司

資格：二級建築士
 インテリアコーディネーター
 趣味：料理・仕事
 フラワーアレンジメント

2003年テレビ東京系「TV
 チャンピオン（ガーデニング
 王決定戦）」に出場



ヘブンスガーデン
 〒252-0813
 藤沢市亀井野 1515
 Tel:0466-90-0555

☎0120-08-6658
 www.heavens-garden.co.jp

ヘブンスガーデン

検索